

【注意】当記事の無断複製転載を固く禁じます。

立システム
日シ

RPAの導入促進

都内でセミナー

ユーザー企業
登壇し苦労話

日立システムズは、このほど、東京都内で「RPA導入ユーザーが語る業務自動化セミナー」を開催した。働き方改革の影響もありRPAの活用が目まぐるしく、セミナーを通じてRPAの導入促進を図り、ビジネスの

効率化に貢献する。今回のセミナーでは活用方法や導入に際しての苦労話などを紹介



住友林業の成田シニアマネージャーが登壇し、RPAの活用方法や導入に際しての苦労話などを紹介した。

RPA全般の機能や利用シーンについて解説。実際にRPAを導入した企業が登壇し、

RPAへの関心の高まりにより会場は満席



した。当初予定していた定員を大きく上回る100人が参加し、RPAへの関心の高さをうかがわせた。

非常に高い。今後もこうした機会をつくり、情報発信を行っていきたい」とあいさつした。具体的な事例紹介と

冒頭、デジタルライゼーション推進統括本部RPA推進センターの石塚郁人センター長が「RPAは広範囲な業務に活用できる技術として期待されている。実際に現場での導入も始まっており、導入事例

に対しての関心は非常に高い。今後もこうした機会をつくり、情報発信を行っていきたい」とあいさつした。具体的な事例紹介と

して、住友林業情報システムの成田裕一シニアマネージャーが「働き方改革にRPAの有効活用方法」をテーマでRPAを導入した」と題し、講演を行った。

住友林業では現在、100体以上のロボットが稼働し、受託業務を30以上こなしている。月間180時間以上、業務の削減に貢献している。業務内容はカタログ請求から発送までのルーティンワークやドライブレコードデータからの運転日報自動生成など多岐にわたる。

同社がRPAシステムを構築する上で工夫したのが、一つの業務を一つのロボットにやらせるのではなく、業務を作業タスクに分割し部品化したこと。ロボット情報を一元管理することで、管理とメンテナンスも効率化することができる。

成田シニアマネージャーは「RPAはスケールの計画や環境、基盤が必要であり、何よりもスピードが肝心」と話す。

セミナーの最終講演では、スマートソーシング&サービス事業部の玉井学主任技師が日立システムズの取り組みについて紹介した。顧客への導入例ほか、顧客への導入事例約100件の中から代表的なものを紹介した。RPAへの関心が高まる中、同社では同セミナーの第2回開催も計画している。